

2019「地域文化財専門家」育成研修カリキュラム
2019「地域文化財サポーター」養成講座カリキュラム

月	テーマ	講義(120分)／演習(90分)	時間	講師
6 ／ 22	0 文化財建造物活用の意義	オリエンテーション ・文化財建造物とは何か、活用の意義は何か	1.5	文化庁 県教委
	1 静岡県の文化財建造物	・静岡県の概観／事例紹介 ・文化財建造物を見に行こう 【宿題】文化財建造物を1人10箇所程度リストアップ	2.0	土屋和男(常葉大学)
	【実地研修】1	・身近な地域の文化財建造物の発見：抽出の調査 ・発見した文化財建造物について調査票作成	5.0 2.0	
7 ／ 27	2 文化財建造物の評価と保存	・文化財建造物の評価と保存／保存事例に学ぶ 【発表】見つけてきた文化財建造物2, 3の発表	2.0 1.5	西澤泰彦(名古屋大学)
	【実地研修】2	・発見した文化財建造物について写真等整理、及び既往調査の学習(民家緊急調査、近代化遺産調査等)	2.0	
8 ／ 24	3 文化財建造物の活用	・文化財建造物の活用とまちづくり：事例に学ぶ 【演習】グループ編成により、1グループ1件に絞る	2.0 1.5	瀬口哲夫(名古屋市立大学)
	【実地研修】3	・候補物件の所有者への承諾、市町教委との協議 ・対象物件の歴史資料等の収集、史資料の検証 ・所有者等への聞き取り調査 ・対象物件の実測調査	2.0 2.0 1.0 8.0	
9 ／ 28	4 修理の現場研修	<場所未定>	3.5	増田千次郎(日本建築センター)
10 ／ 19	5 文化財建造物の管理	・文化財建造物の修復／保存から修復、修復から活用へ／修復の考え方と方法 【演習】文化財建造物の調査(中間発表)	2.0 1.5	木村 勉(長岡造形大学)
	【実地研修】4	・対象物件の地域的・景観的文脈からの調査 ・対象物件の地形・都市との関係性からの調査 ・空間的観点：街道、集落、寺社、河川、地形との関連 ・時間的観点：明治、大正、昭和戦前、戦後、近年の変遷	1.5 1.5 1.5 1.5	
11 ／ 9	6 さらなる活動の展開1	・文化財建造物を活かしたまちづくり・景観 ・歴史まちづくりの法制度／平常時・非常時の専門家の役割 【演習】まちづくりへの活用	2.0 0.5 1.0	西村幸夫(東京大学) 塩見 寛 (静岡県ヘリテージセンター)
	【実地研修】5	・所見書の作成、配置図・平面図等整理、調査のまとめ ・発表プレゼンテーション打合せ・検討・まとめ	2.0 2.0	
12 ／ 14	7 さらなる活動の展開2	・文化財建造物の保存・活用と展開 【発表会】1件について成果の発表	2.0 1.5	後藤 治(工学院大学) 塩見 寛 (静岡県ヘリテージセンター)
	【実地研修】6	・記録報告書の作成 調査票、所見書、過去・現在・これからの展望 所有者の意向を踏まえた将来の展望、活用案 図面の整理：位置図、配置図、平面図、立面図等	3.5	

サポーター養成講座↓

60.0

* 地域文化財専門家研修は、CPD対象研修です。

* 地域文化財サポーターは、9月までとするが、希望すれば10月以降も受講することができる。

* その場合、実地研修は専門家チームにサポーターが参加するものとする。